

ECO NEWS



QMS EMS
JIS Q 9001:2000
JIS Q 14001:2004
JSAQ 1001, JSAE 768

【温室効果ガス】とは？

地球に降り注ぐ太陽の熱のほとんどは宇宙に放出されています。その一部を吸収し、地球を「温室」のように暖かく保ってくれる役目をしているのが、「温室効果ガス」と呼ばれる少量の気体です。ガスの効果により、地球の平均温度は生物の生活に適した14℃くらいになっています。しかし現在、温室効果ガス(特にCO²)が増え、大気中に熱がこもり気温が上昇し続けています。この現象が、地球温暖化の起こる原因です。

【日本の温室効果ガス排出量】

国別のCO²排出量では世界で4番目に多く、国別一人あたりの排出量も世界で8番目に多い国です。量としては、一人あたり年間10tにもなります。

【気温の変化】

温室効果ガスの増加と共に、世界の気温も上昇しています。1906年からの100年の間に気温は0.74℃上昇しました。特に2005年までの50年間の上昇傾向は10年で0.13℃と100年間の傾向のほぼ2倍の上昇率です。

このように、地球の気温は上がり続けています。これからは、一人ひとりがCO²等の温室効果ガスを減らす努力をしなければならない段階まで来ています。温室効果ガスの増加を少しでも減らし、住みやすい環境が少しでも長く続いていく為には、一人一人が環境に対する意識を持ち、無駄な電気を消す等の小さな事でもコツコツと継続して行なう事が必要ではないでしょうか。小さな事でも多くの方が行なえば、大きな成果になるはずですよ。どのようなことが個人でできるのか、皆さんも考えてみてはいかがでしょうか。

にしまる探検ツアー その9

今回は4階にある外来ロビーをご紹介します。病院の玄関から入り右の廊下を少し歩き、自動ドアを通りますと外来ロビーが右手に広がっています。平日は外来患者様の待ち合い場所となっていますが、月に一度様々なジャンルの楽器演奏や歌声を披露している「ロビーコンサート」を開催し、普段のロビーとは違った雰囲気かもしだしております。



編集後記

みなさん今年の夏はどのようにお過ごしでしょうか。ビアガーデンやお祭りなど、夏の行事は楽しむことができたでしょうか。お盆が過ぎ、少しずつ気温も下がり秋が近づいてきます。季節の変わり目ですので、体調管理に気をつけ、これから読書の秋、食欲の秋、体育の秋を楽しみましょう!!

すべての
お問い合わせは

郵便

〒064-8557
札幌市中央区円山西町4丁目7-25
札幌西円山病院 医療福祉課内
広報誌「にしまるやま通信」編集事務局

お気軽にお問い合わせ下さい!

電話 (011) 644-1380
FAX (011) 642-4347

医療 法人 溪仁会

〔医療法人溪仁会 札幌西円山病院 広報誌〕

にしまるやま通信

NO.64 2010年
7,8月号



- 回復期リハビリテーション病棟紹介 ● 夏祭り ● 制度紹介
- ECO NEWS ● にしまる探検ツアー ● 編集後記

* * 札幌西円山病院のご案内 * *

- 診療科目 内科、神経内科、リハビリテーション科、循環器内科、歯科
- 病床数 869床(障害者施設等入院病棟、医療療養病棟、回復期リハビリテーション病棟、介護療養型医療施設)

回復期リハビリテーション病棟紹介

6A病棟 師長 高橋 佳恵
6B病棟 師長 八巻 佐登美

当院の回復期リハビリテーションが開設されたのは、平成12年12月でした。北海道で最も早く開設、6A病棟48床でスタートしました。平成20年10月には6B病棟に41床増床し89床になりました。当院に入院している患者様は平均年齢79歳。重症患者様は全体の34%、在宅復帰率は60%を占めています。全国の回復期リハ病棟の平均に比べ、高齢者が多く、重症の患者様が多いのが特徴です。

回復期リハビリ病棟の看護の方針は、

- ① 機能の回復と同時に機能低下を予防。
- ② 特異な症状に対する安全な技術の提供。
- ③ 認知障害への対応
- ④ チーム医療(他職種理解と協力)です。

患者様の疾患によって入院期間が2~6ヶ月と限られています。



▲ 退院時カンファレンスの様子

回復期リハを要する患者	入院までの日数	上限日数
脳血管疾患、脊髄損傷、頭部外傷、脳腫瘍、脳炎、くも膜下出血のシャント手術後、急性脳症、脊髄炎、多発性硬化症、腕神経叢損傷等の発症又は手術後、技肢装着訓練を要する状態。	2ヶ月以内	150日
高次脳機能障害を伴った重症脳血管障害、重度の頸髄損傷、頭部外傷を含む多部位外傷の発症又は手術後	2ヶ月以内	180日
大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節、2肢以上の多発骨折の発症又は手術	2ヶ月以内	90日
外科手術又は肺炎等の安静により廃用症候群を有しており、手術後	2ヶ月以内	90日
大腿骨、骨盤、脊髄、股関節又は膝関節の神経、筋又は靭帯損傷後	1ヶ月以内	60日

入院期間内に、チーム全体で、患者様の課題を抽出し、目標の設定を行い、プログラムを実践し在宅退院を目指しています。在宅退院前には看護師・リハスタッフ・MSWが患者様のお宅を訪問し、住宅改修、福祉用具を選択、自宅での生活がしやすいよう工夫して退院に結び付けています。在宅生活が難しい場合は患者様にふさわしい生活の場を検討し患者様、御家族と検討しながら決定しています。

回復期の患者様にとって、リハビリを行うことはもちろん大切なことですが、病棟での生活が回復過程に大きく影響します。患者様の望みや回復の兆しに気づき、その気づきをケアに結びつけ、しっかり実践することで患者様の回復を助け自立した生活へとつなげて行きます。

多くの患者様が退院している中で、家庭復帰が難しいと思われた患者様ご自宅へ退院した事例を紹介します。

くも膜下出血 75歳男性 入院時左上下肢麻痺 気管カニューレ挿入、経鼻経管栄養、排泄はオムツ対応。尿便意は曖昧で排泄後不快からオムツを外してしまう事があったが、皮膚感覚がある事を見逃さず尿器で排泄できないか、検討し、排泄が尿器からトイレへ向上しました。妻が面会に来た時にトイレ介助の方法を指導しました。食事はST訓練から、看護師・ケアワーカー介助、自力摂取ができるようになり完全に経口摂取となりました。気管カニューレも抜けた頃から自宅での生活を考え、家庭訪問を実施し、外泊を繰り返して自宅への退院となりました。退院後元気で生活していると写真を送ってくださった時は看護士として本当に「良かった」と実感しました。

患者様が元気に退院する姿や、身体機能が改善する姿を見て、共に喜びを感じながら日々看護しております。



平成22年度 札幌西円山病院夏祭りが開催されました☆

8月6日(金)、毎年恒例の夏祭りが開催されました。当日は、気温が30度を越える暑さとなり、屋上での開催が心配されましたが、日差しが強くなかったこともあり、多くの患者様・ご家族様にご来場いただくことができました。

会場には、今年もお店を多数出店。食べ物コーナーでは、ジュースやカキ氷、あんみつ、タルトなどを提供させていただきました。ゲームコーナーでは、ヨーヨー釣り、魚釣り、玉入れゲームをお楽しみいただきました。患者様からお子様まで、どのお店も大盛況でした。

盆踊りとともに、今年が目玉となったのが、北翔大学よさこいソーランサークル友和(とわ)による「よさこい」でした。普段、間近で見ることのできない盛大な踊りに、患者様やご家族様だけではなく、職員も思わず見入ってしまいました。

天候等の不安もありましたが、皆様方のご参加と、ボランティアさんその他多くの方々のご協力により、今年の夏祭りも無事に終わることができました。

今後も、患者様、ご家族様をはじめとする皆様楽しく交流できるような行事を企画していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。



制度紹介

☆ 特定疾患治療研究事業

現在、国が難病として指定している疾患は130疾患あります。その中でも、特に原因不明で、治療が困難かつ長期にわたるとされている疾患を「特定疾患」として指定しています。「特定疾患」は、疾患の特性により、医療費が高額になりやすいことから、申請により、医療費の負担が軽減されます。

☆ 対象となる疾患は？

現在、「特定疾患」として、56疾患が指定されています。

特定疾患の例)・・・パーキンソン病関連疾患、脊髄小脳変性症、多系統萎縮症、筋萎縮性側索硬化症、重症筋無力症、後縦靭帯骨化症、等

☆ 助成の内容は？

「特定疾患医療受給者証」が交付されると、認定された疾患にかかわる医療費に関して、生計中心者の所得状況により、入院と通院別に1ヶ月の自己負担上限額が段階的に設けられます。また、一部の疾患や、日常生活に著しい支障があると認められた「重症認定患者」、生計中心者が市町村住民税非課税の方などは、自己負担額が0円となります。

☆ 申請方法は？

住所地のある地域を管轄する保健所または保健センターが申請窓口となります。申請にあたり、申請書や診断書、世帯の所得状況を確認できる書類等が必要となります。

申請につきましては、保健所または保健センター、もしくはかかりつけの病院・診療所にまずご相談ください。